

第2学年 英語科学習指導案

対象 2年3組 男17名, 女16名 計33名
指導者 久保 晴輝

1 単元名 POWER-UP 6 Speaking 道案内① (開隆堂 Sunshine English Course 2)

2 単元について

(1) 生徒について

学級の生徒は、既習事項に関わる質問においては、積極的に挙手発言ができています。しかし、自分の考えを持ったり、全体の前で話したりすることに壁を感じている生徒がいる。

本単元に関わる、既習事項(学習内容)について、レディネステストを行ったところ、次のような結果となった。

<p>1. 日本語を参考にして { } 内の語句を並びかえ、英文を完成させなさい。</p> <p>① 駅はどこですか。{ is / the station / where / ? } 正答 (Where is the station?)</p> <p>② 図書館の近くです。{ near / is / it / the library / . } 正答 (It is near the library.)</p>	<p>正答率 91%</p> <p>正答率 58%</p>
<p>2. 英語を聞いて、その言葉が表す日本語を下から選び、丸で囲みなさい。</p> <p>① (右へ曲がる / 左へ曲がる / まっすぐ進む)</p> <p>② (右へ曲がる / 左へ曲がる / まっすぐ進む)</p> <p>③ (消防署 / 警察署 / 郵便局)</p>	<p>①正答率 91%</p> <p>②正答率 97%</p> <p>③正答率 100%</p>

1年生の既習事項は、ほとんどの生徒が身につけていると言える結果であった。1②の問題は、is と it の語順を間違える生徒が多かった。

本単元では、道案内をするという場面で、目的地への向かい方を即興で発表するという言語活動を設定した。相手に対して、呼びかけたり正確に説明したりするために必要な、基本的な表現を理解させ、即興で運用する力をつけさせたい。

(2) 教材について

本単元は学習指導要領の2内容(1)言語活動「話すこと」の指導事項イ「自分の考えや気持ち、事実などを聞き手に正しく伝えること」に関連した教材である。これまで生徒は、小学6年時に、“Go straight.”や“Turn right.”など簡単な表現を使って道案内をする活動を行っている。中学校1年生では、疑問詞 where を学習し、場所をたずねる表現を扱った。既習表現を想起させながら別の表現を示し、目的、場面、状況に応じて表現する力を高めたい。また、「聞くこと」においては、指導事項イ「自然な口調で話されたり読まれたりする英語を聞いて、情報を正確に聞き取ること」及びエ「話し手に聞き返すなどして内容を確認しながら聞き取ること」に関連した教材である。2年生では、POWER-UP 3 電話①を扱っており、相手の依頼や誘いを正確に聞き取り、応答する活動を行っている。またこの教材は、指導事項エ「話し手に聞き返すなどして内容を確認しながら聞き取ること」にも関連している。道案内を聞き取るという正確に情報を聞き取らなければならないシチュエーションのなかで、話し手の説明を正確に聞き取る力を育てたい。

(3) 指導について

本単元では、ペアでの活動に意欲的に取り組み、その場に応じた英語を用いて即興で目的地までの行き方をたずねたり、教えたりすることを学習のねらいとする。そのために、即興で言葉が出てくるようなレベルになるまで、十分な時間を割いて、視覚的な情報を加えたりしながら繰り返す。

返し練習を行う活動を取り入れる。実際の発表の場で、ペアでの発表を円滑にするために、単元の導入では、教科書のモデル対話を導入する際、生徒と教師間の活動から始まり、個人やペアの活動の場を設定することで、重要な表現に何度も触れ、本時でその基本的な表現を応用したり、使える表現の中から即興で選んだりできる素地を作りたい。また、個人、ペアで練習を行う活動の後に、グループでの発表の場を何度か設けることで全体の場での発表に向けて自信をつけることもねらいとする。

本単元では助動詞 will/can の過去形 would/could を用いた丁寧な依頼表現を扱う。would を用いた表現は、POWER-UP 4「ファーストフード店で」で既習である。could に関しては、今回が初出であるが、既習の Can you ～ の用法と関連づけて認識させるように気をつけたい。場所をたずねる表現としては、疑問詞 where を使った文を1年次に学習済みである。場所をたずねる応用表現も扱うため、基本文を押さえつつも、生徒自身が選んで使えるような提示を工夫したい。

3 単元の目標

- (1) 外国語への関心・意欲・態度
道をたずねたり、道のりを説明したりして適切にペアワークの活動に取り組むことができる。
- (2) 外国語表現の能力
地図を見ながら目的地までの道のりを口頭で表現することができる。
- (3) 言語についての知識・理解・技能
道案内で用いられる基本的な表現を理解して使うことができる。

4 指導と評価の計画

時	学習内容	外国語への関心・意欲・態度	外国語表現の能力	言語についての知識・理解・技能
小6	目的地への行き方をたずねたり言ったりする表現に慣れ親しむ。	適切に道をたずねたり、道案内したりしようとする。		
一	1	道案内の基本的な表現を理解し、聞き取る。	ペアワークにおいて適切にコミュニケーションを取ろうとしている。	道案内の基本表現を理解し、道案内の説明文を聞き取ることができる。
二	2 【本時】	即興で与えられた場所について、場所をたずね、道案内をする。	ペアワークにおいて適切にコミュニケーションを取ろうとしている。	地図を見ながら目的地までの道のりを口頭で表現することができる。
中3	路線図を見ながら、電車の乗り換えの道案内をする。	ペアワークにおいて適切にコミュニケーションを取ろうとしている。	路線図を見ながら目的地までの乗り換えを口頭で表現することができる。	道案内で用いられる疑問詞＋不定詞の表現を理解して使うことができる。

5 本時の指導

(1) 目標

道案内で用いる表現を使い、正確に道順を説明することができる。

(2) 評価規準

評価の観点	評価規準
外国語への関心・意欲・態度	ペアワーク、グループのやりとりに取り組みながら道をたずねたり、道のりを説明したりしようとしている。
外国語表現の能力	地図を見ながら口頭で正確に目的地までの道のりを表現することができる。
言語についての知識・理解・技能	道案内で用いられる基本的な表現を理解し、適切なタイミングで使うことができる。

(3) 展開

段階	学習活動	●指導上の留意点 ◎評価
導入 5分	1 Greeting 2 前時の想起 3 課題の確認 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">旅行者に、地図を見ながら道案内をしよう。</div>	●英語を使って前時の想起を行う。 ●実際にくじを引いて生徒とやり取りを行い、本時のイメージをもたせる。
展開 40分	4 課題の解決 (1) 既習事項の確認 ・ 個人でワークシートを使って、前時確認した基本的な表現を確認する。 ・ 評価のポイントについて知らせる。 (2) ペア活動 ・ ペアで現在地と目的地を選び、役割を交代しながら何度も練習する。 (3) グループ活動① ・ グループを作り、グループ内で対話を行う。 聞いている側のペアがランダムに現在地と目的地を例示し、対話を行う。聞いている側は、対話の良かったところをコメントする。 (4) グループ活動② ・ グループの組み合わせを変えて対話を行う。 出発点と目的地をランダムに変えて行う。 (5) 発表 ・ 全体の前で対話を行う。 前に出たペアは、くじを引いて、黒板の地図を見ながら対話を行う。	●ワークシートを使って確認させる。 ●評価のポイントを知らせ、表現活動への動機付けとする。 ◎やりとりに取り組みながら道をたずねたり、道案内をすることができるか。(以下の活動も同様。) ●止まってしまっても、日本語を使わずジェスチャーを用いたりして解決するよう伝える。 ●どんな聞く・話す態度が良いか生徒に考えさせる。 ●出発点をランダムに変えることで、より即興性を求める。 ●グループ活動を見て、良いところを生徒に伝え、次に生かす。 ◎地図を見ながら口頭で正確に目的地までの道のりを表現することができるか。

終末 5分	5 振り返り <ul style="list-style-type: none"> ワークシートにコメントを書かせる。 4人グループで交流する。 	●学習内容をワークシートに書かせる。
	例 道案内で使うことができる表現をいくつか覚えることができた。発表では、即興で実際に地図を使いながらワークシートを見ずに、対話することができた。Could you は、道案内だけでなく他のお願いにも使えると思った。	
	6 Greeting	

板書計画

